

自 己 評 価 書

(平成26年度)

平成27年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I 学校の現況及び目的	1
II 評価項目ごとの自己評価	2
1. 教育課程・指導	2
2. 保健安全管理	10
3. 組織運営	13
4. 研究と研修	16
5. 教育環境整備	19
6. 教育実習	21
III 自己評価別添根拠資料一覧	26

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成26年5月1日)
幼児数126人 教員数9人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 平成26年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究を生かし、生活プランの改善を図る。
- ③危機管理対策をさらに見直し、その強化を図る。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。今年度は幼児期から児童期への科学的思考を促す幼小接続教育課程を、数量、図形、言葉や文字、協同性の観点から改善して教育課程・指導計画を再編成した。

【分析結果と根拠理由】

①平成25年度まで文部科学省の研究開発学校の指定を受けて進めてきた成果をまとめ、幼児の科学的思考を促す教育課程・指導計画を作成し、「生活プラン」を刊行した。「生活プラン」では、5歳児9月から1年生7月までを「接続期」として、幼小の教育内容や方法の接続の方略を示し、「科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素－鳴門教育大学附属幼稚園方式－」を提案した。

②平成26年度附属幼稚園オープンスクール（来園者172名・アンケート回答者84名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については99%の保護者が「とてもよい」評価している。1名のみ「自由すぎる気がした」という理由で「どちらでもない」という評価があった。記述の中では、子どもの自主性が尊重され、子どもが個々に考え行動しているところや、子どもの意志を尊重しながら、そっと支援してくれているところ、一人一人を細かく見ているので、子どもの心が先生の方をしっかりと向いているところが、「個性や一人一人を尊重した保育」が展開されているという根拠となっていることが推察できる。

「季節感や自然を大切にしたい保育展開」については、自然にあふれた環境であることや、園内どこにいても季節感を味わえるような工夫がされているなどが高い評価を得ていた。教師の姿勢・指導力についての記述では、先生がいつも楽しそうで、笑顔が絶えない。先生が子どもたちと一緒に遊んで遊び、指導している。色々な遊びの提案がされており、興味をもつように準備されている。少し難しいことにも、安全に配慮しながら、チャレンジさせている点が素晴らしい。全ての先生が学級の分け隔てなく、全ての子どもを見ていて、子どものことを把握している点がすごい。等の支持を得た。

幼児教育研究会をはじめとする研究会（来園者420名・アンケート回答者76名）では、幼児教育関係者の97%が幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導ができていると評価している。また、科学的思考を促す指導計画の実践については95%ができていると評価した。98.7%が認めるようにその背景には、幼児の興味や関心を促す保育環境が適切に構成されていることが関連づけられる。

その一方で、少数ではあるがオープンスクールの「安全管理」の自由記述にあるように「安全面や衛生面に配慮がなされている」「園内全体が整理整頓、清掃、清潔が行き届いている」が、「少し古くなっている遊具が気になった」とのような意見もある。

平成26年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

実施日	平成26年11月1日（土）	
対象	オープンスクール参観者	172名（アンケート回答者84名）
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

アンケート集計結果

○保育について	
・とてもよい	83名（99%）
・あまりよくない	0名（0%）
・どちらでもない	1名（1%）
・記入なし	0名（0%）
○環境整備について	
・よく整っている	80名（96%）
・もっと整えて欲しい	2名（2%）
・どちらでもない	1名（1%）
・記入なし	1名（1%）

保育について自由記述の概要

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- のびのびと楽しそうに遊んでいた。
- 子どもたちの笑顔がたくさん見られた。
- 個々に好きな遊びを思いきり楽しんでいる様子を見て、嬉しくなった。
- 五感を使って遊んでいる点が素晴らしい。
- 子どもたちそれぞれが好きな遊びに集中して無になり、いきいきと自分を表現して楽しめている。
- 身体をしっかり動かすことができる。
- 自由闊達で、快活な風土が大いに感じられる。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 次々と新しい遊びにチャレンジしている姿が見られた。
- 子どもの自主性に任せて、のびのびと保育されている。
- 自分で選択して遊ぶことができる点が素晴らしい。
- 園児が遊びの中で、自ら考えて行動している。
- おやつ部屋へ行く時に、一人も忘れることなく、コップと歯ブラシを持って行っていたのがすごいと思った。
- 子どもの発想が生かされている遊びの歴史が感じられるのが素晴らしい。
- 全ての子どもが自分の居場所があって、自分の目的に向かって活動しているように見えた。

★集団活動・協調性

- クラスを超えて、一緒に遊ぶ様子が多く見られた。
- 子どもたちが自分で考えたり、友達と相談したりして遊びを進めている。

○個々の思いを大切にしながらも、みんなでのまとまりを尊重している。

★**自然環境が豊か、季節感・自然物の活用**

○園庭の植物がきれいにされている。

○季節の花や折々の物があふれ、すぐに手にとれたり触れたりできる。

○季節のものを取り入れた遊びが見られ、大人もやりたくなるほどの品揃えだった。

○植物が多く、学級に応じて植え方に違いが見られた。

○緑や畑もあるなか、手入れがよくされている。

★**安全管理**

○安全面や衛生面に配慮がなされている。

○遊具が充実している。

○園内全体が整理整頓、清掃、清潔が行き届いている。

○子どもにとって危険なものがない。

○雨上がりだったので、滑りやすいところは拭いていたので、安全を考慮していたと思う。

●少し古くなっている遊具が気になった。

★**遊具・素材・材料等**

○子どもが興味をもったときに、すぐに使うことができるように準備されている。

○必要なものが揃っていて、充実している。

○子どもたちの発想がたくさんふくらむようなものがあったととても良いと思った。

○材料にゆとりがあるので、子どもたちが落ち着いて取り組むことができる。

○工作の材料が豊富で良かった。

○子どもが使うものは、手の届く範囲にあるので、子ども自身で片付けもしやすいと思った。

★**空間・動線・場の構成**

○敷地の有効活用ができています。

○開放感があり、学年を感じさせないところが良い。

●園庭がもう少し広いと良い。

別添資料	1-①	平成26年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成26年度研究会参観者アンケート集計結果
別添資料	1-③	平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	1-④	生活プラン

観点1-2 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況

昨年度までの3年間、文部科学省より研究開発学校の指定を受け「幼小接続の教育課程開発」に取り組んできた成果を生かし、積極的な幼小の合同保育／授業が展開されている。

【観点に係る状況】

①接続期の始期・終期を設定し学びと育ちの連続性を確保している

5歳児Ⅱ期から1年生7月までを接続期と設定し、接続期後期となる小学校入門期のカリキュラムを小学校1学年担任と共同して作成した。これをもとに教育実践計画と指導方法の工夫を進め学びと育ちの連続性の確保が実現している。

以下に5歳児3月と1年生4月を例示する。

5 歳児 3 月の指導計画

【幼児の姿】

- 自分達で企画・構成して表現会をやり遂げたことや、それらを保護者や大人達から評価されたことに自信めいたものが感じられるようになる。また、このようなことから、さらにいろいろな場で自分のもっている力や気づきや考えなどを表現していこうとするようになる。
- 動物の世話や片づけ、行事の準備など、いろいろな園の仕事や役割を年中児に伝えることを喜び、相手に伝える活動の中で改めてそうすることの意味を知ったり、生活の中のきまりの大切さを知ったりし、それらについて話し合ったり守ろうとしたりする姿が多く見られるようになる。
- 花のつぼみや草木の芽吹、風の暖かさなど春の自然の変化を感じたり、期待をもって動植物を観察したりする姿が多く見られるようになる。
- 小学生との合同保育／授業などに参加することや、修了に向かってのいろいろな準備の中で小学校生活への期待が表現されるようになる。また、日常生活の中で、文字や数、時間、表示や標識などに関心をもったり、それらを使ったりしながら、適当な表現方法や使用場面等についての関心が強くなる。

【ねらい】

- 修了に向けてのいろいろな行事や活動の中で自分の成長を感じたり、周囲の人への感謝の気持ちをもつ。
- つぼみや草木の芽、日差しや風の暖かさなど春の自然の変化を感じたり、期待をもって動植物などを観察したりする。

指導内容	指導の要点と環境の構成の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○修了に向けてのいろいろな活動の中で、自分や友達の成長や変化を感じたり、周囲の人達に感謝の気持ちをもったりする。 ・修了記念番組、修了式、おわかれの会や遠足などの活動や行事を計画準備し、参加したり招待されたりする。 ・自分の作品の整理をしたり、心を込めて年中児へプレゼントなどを作る。 ・自分達の使った共同の遊具や用具の手入れや整備に関心をもち、行う。 ・各々の力を出し合い、友達と話し合ったり役割を分担したりしながら修了式の準備をしたり、場をしつらえたり花で飾ったりする。 ・日常生活の中で、文字や数、時計、いろいろな表示や標識などに関心をもったり、それらを使ったりする。 ・話し合いながら計画をたてたり、内容を練ったりし、自分や友達の得意なことを互いに引き出し合う。 ・自分達のしようとしていることの目的を理解して、役割や仕事の内容を意識する。 <ul style="list-style-type: none"> ○動物の世話や共同の遊具や用具の手入れや整備など、幼稚園生活の中のいろいろな活動や役割を年中児に伝える。 ・年中児を誘って動物の世話をし、掃除や世話の仕方、ルールなどを伝えたりする。 ・活動の場面場面でも友達の様子に注目し、自分の見方の変化や友達の行動の変化に気づく。 ○身近に春の訪れを感じながら、その不思議さや美しさなどに気づき、興味をもってかかわっていく。 ・黄砂やもやのかかった景色、つぼみや木の芽、日差しや風の暖かさなど春の自然に触れて、その大きさや不思議さ美しさなどに気づき興味をもつ。 ・つぼみや木の芽など浅春の自然の変化を感じたり、期待をもって動植物を観察したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○修了に向けての生活を支え、共に創り出していく。 ・修了までの生活の見通しがもてると共に、目標や自分達の現在の準備内容などを確かめたり共通理解したりできるように話し合いの場をもつ。 ・これまでよく知り合った仲間の特徴を活動の目的に合った形で表現できるようにするため、話し合いの場が支持的な雰囲気になるよう努める。 ・保護者に向けての感謝の茶会など、幼児が身近な人への感謝の気持ちが表現できる機会をもつようにするとともに、心を込めた表現を支えていく。 ・カレンダーを使って行事などの計画を立てたり、準備の状況を確認したりしながら進めていく。 ・プレゼントや保育室の環境など、手渡す年中児や年少児の気持ちや表情などを想像しながら作ったり準備したりできるように、これらのことについて話し合いながら相手の気持ちや表現に意識を向いていくようにする。 ・修了式では幼児と保護者・保育者が共に成長を祝い喜びが感じられるよう、言葉や身体を伸び伸びと力強く使って表現できるような場や構成を考える。 ・修了式場を準備したり、生花を生けて飾ったりしながら、自分を育ててくれた人達への感謝の気持ちをもてるように援助していく。 <ul style="list-style-type: none"> ○生活の中のいろいろな活動や役割を年中児に伝える。 ・年中児を誘って一緒に動物の世話をしたり、自分達なりの体験や想いを伝えたりする中で、自分の体験や考えを意識化したり、このようなかかわりのできるようになった自分の変化に気づいたりできるようにしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ○春の自然に触れたり感じたりする楽しみを共感していく。 ・これまでの植物や環境と比較したりする姿を大切にしながら、「なんだろう。よく見てみよう」という好奇心とそれらの美しさへの興味に共感していく。 ・幼児と共に戸外に出て活動する機会を多くし、植物の世話や手入れを一緒にする中で花のつぼみや木々の芽の様子に気づきやすいようにする。

- 小学校への期待をもって生活する。
- ・友達や保育者との会話の中で、小学校生活への期待や不安などを表現し、話し合う。
- ・小学生と一緒に小学校を探検し「宝物」を見つれたり、それを使って俳句カルタを作ったりする。
- ・小学生と一緒にアルバム作りの学習に参加し、1年間の学習や生活を表す絵や写真、説明などに触れながら、小学校の生活の具体について知ったりイメージしたりする。
- ・日常生活の中で、文字や数や表示や標識などに関心をもったりそれらを使ったりする。
- ・保護者と一緒に小学校通学の方法で登降園をし、通学の方法や時間必要な行動などについて知る。

- 小学校への期待をもって生活できるよう援助する。
- ・小学生とのかかわりの中で、自分の小学生生活に明るいイメージがもてるようにすることを大切に、学習や通学など具体的な心配事や期待していることを話し合いの場で出し合い、対話していく場をもつようにする。
- ・小学生や先生とのかかわりの中で、「小学校には、あのお兄ちゃんやお姉ちゃんがいる」「あの先生が待っていて」「あの部屋〇〇が使える」と期待をしたり、明るいイメージをもって入学準備できるようサポートする。
- ・文字や数などへの憧れや不安に注目し、それらを自分のものにするこゝでわいてくる自分への信頼や知的好奇心を促したり、助けたりする。
- ・保護者に小学校通学の方法での登降園を積極的に促し、通学をはじめとした生活の自立を進めていく。

1年生4月の指導計画

接続期後期（第1学年）のカリキュラム 1年生4月の指導計画

I 期（4月） わたしたち 一年生			
過ごし方 一年生になった喜びや不安を感じながら、学級担任や教室などの身近な人や環境に親しみをもってかかわるようになり、少しずつ小学校での生活の仕方が分り始める時期。			
児童の姿	ねらい	指導内容	指導の要点と環境の構成の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場所や教室のものに関心をもつ。 ○小学校での学習や生活に期待をもち、早く文具や教科書を使ってみたり思ったり、遊具等で遊んでみたいと思ったりしている。 ○文字を書いたり音読したりすることを喜ぶ。 ○身近な物の数を唱えたり数字を書いたりしながら、数の学習を楽しむ。 ○発表の仕方を覚え、発表することを喜ぶ。友達の発表もしっかり聞くという授業の型に慣れていく。 ○日直の仕事を通して責任感をもち、自分の自信になり喜びを感じている。 ○年長者の学校生活（場所の使い方や挨拶など）を、あこがれの気持ちで見てもやってみようとして、分からないことを教えてもらったりしている。 ○最初、少し不安をもちながらも登下校の仕方を保護者や先生に教えてもらい、次第に慣れ安心して登下校できる。 ○小学校の授業の進み方（発表や質問など）に関心をもったり、新しいきまりやルールがあることを知ったりする。その中で、幼稚園の生活との違いを感じながら、分かることやできることが増えていくことを喜び、安心して楽しく過ごす。 ○幼稚園からの友達に加え、新しい友達が増え、学級の友達とふれあい、楽しく過ごす。また、新しい先生や前から知っている先生とかかわる中で、親しみや安心感を感じたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での学習に期待をもち、文具や教科書を使ったり、授業を受けたりする。 ○先生や上級生に教えてもらいながら、いろいろな場所や生活の仕方を知っていく。 ○喜んで登校し、担任や友達に親しみをもってかかわり、不安や緊張感を和らげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字や数字などに関心をもつ。 ・文字への興味・関心がわき、読んだり書いたりする。 ・音読を通して、文章を声に出して読む楽しさを味わう。 ・本を読む習慣を身につける。教科書や学級文庫、図書室の絵本や図鑑などに親しむ。 ・本の読み聞かせの時間を楽しむ。 ・身近な物の数を数えたり、唱えたりして、数への興味・関心がわく。 ・数え方の違いを知ったり、数の大小を捉えたりする。 ・時計の時刻を気にして学習したり遊んだりし、教室に集まったりしようとする。 ○小学校での集団生活に馴れる。 ・学校のルールやきまりを覚えていく。 ・挨拶や返事を丁寧にしようとする。 ・トイレの使い方が分かる。 ・持ち物の準備や始末の仕方が分かる。 ・みんなで使う物などのしまう場所や位置等が分かり、整理整頓しようとする。 ・安全に安心して休み時間の遊びを楽しむ。 ・喜んで登校するとともに登下校がスムーズにできる。 ○生活的な学びの中で、さまざまな気付きを深めたり広げたりする。 ・学校探検を中心に、校内にあるさまざまな物や場所、学校生活を支えている人などを知る。 ・気づいたことや分かったこと、おもしろいことを絵や文、言葉等で表現したり、友達と伝え合ったりして、学級・学校、友達のことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の言動や姿から児童は学びを深めていくため、言葉遣いや表情に気をつけて、話したり聞いたり書いたりする。 ・児童に目的をはっきりさせて指導する。 ・説明や話は、短く丁寧に、聞く態度を認める。 ・注意する点、約束事等はしっかり話し、折にふれて伝える。 ・丁寧な指導を繰り返すことで深く定着していくようにする。 ・児童のよいところはしっかり認めて褒めることで自信をつけるような指導をする。 ○新しい活動や学習には、見通しがもてるようにし、時間にゆとりをもって活動できるようにする。 ・時刻を意識して活動できるよう、早めの集合や準備、片付けを心がける。 ○児童が安心して生活や学習ができるような環境づくりをし、個や集団に応じて丁寧に学校生活の仕方を伝えていく。 ・挨拶や返事、片付け、着替え、トイレ、生活リズム等の生活する力をつけられるようにする。 ・「おべんきょう」「学習」へのあこがれや意欲を大切に、興味関心を高められるような工夫をし、楽しく充実した時間を過ごせるようにする。 ・幼稚園生活の違いや、同じ点などを児童に伝えたり、話し合ったりして、学校生活がスムーズに送れるようにする。 ○教師はできるだけ教室で待つようにし、友達とうまくかかわってあげるよう、また、生活・学習等に慣れ親しめるよう言葉をかけていく。 ○児童の人間関係や遊びなどに気をつけ、休み時間には、教師も一緒に遊ぶ時間を作る。 ・広い運動場や遊具等で思い切り遊べるよう、遊び方やルール等を知らせたり、一緒に遊びながら安全に安心して遊べるようにする。 ●合同研修や連携授業・・・幼稚園との連携 ●連絡帳や家庭訪問等により、児童の家庭との連携

②接続期の教育課程及び評価要素を示す。

接続期における科学的思考の評価要素表を作成することで、幼児期後期の発達を見とる視点が明瞭になり、幼小の指導方法と評価視点を共有できるようになった。

科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表 －鳴門教育大学附属幼稚園方式－

遊誘財が遊びを誘発するプロセス

- ①子どもたちに好奇心や興味を刺激し
- ②子どもたちが自発的に対象を操作することで対象に変化を引き起こし
- ③その変化に「なぜだろう？」と考えることをはじめ
- ④何かの因果関係やつながりなどに気づきはじめ
- ⑤面白い、驚き、好奇心、感動が生まれはじめ

- ⑥繰り返すなかで知識や技術，思考方法を獲得しはじめ
- ⑦何度もそのような仮説（過程）を繰り返すことで，目的をもって取り組むことをはじめ
- ⑧目的が達成されると達成感や精神的充実感により自信や有能感をもちはじめ
- ⑨自分たちがどのような可能性をもっているかが分かりはじめ
- ⑩それらのサイクルが友達同士で行われることで，人間を理解し関係を創造（調整）する力が形成されはじめ
- ⑪協力や協同の能力が育ちはじめ
- ⑫組織・集団（社会）への参加することの大切さや必要性を身に付けはじめ など

科学的思考が促されている姿（表現）に対する評価要素の項目

※科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表を作成する上で，各評価の項目は，幼児の具体的な姿（表現）が上記プロセスから生み出された姿（表現）であることを基本とする。

<p>A. 発見と問題解決</p> <p>①好奇心・試行錯誤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美しいものや不思議なもの，未知のものなどに驚嘆したり，関心をもってかかわったりしようとする。 ○多様なものにかかわって，周囲の子どもたちや大人にたずねたり，自分で調べたり試したりしながら，試行錯誤する過程を楽しみ，そのものの特性に気付いたりする。 ○発見した喜びを味わったり，人に伝えたりして，意欲的に表現しようとする。 ○「なぜ，どうして」などと想像したり，自分のイメージで新しいものをつくり出そうとする。 <p>②論理的に理由付けされた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。（帽子・手袋・上着・雨傘など） ○使った遊具や用具を片付けるとき，正しい場所に置く。 ○遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。 ○最初と最後の様子や過去と現在の状態から，つながりや因果関係を考えたり予測したりする。 ○自然に触れる中で，ものの仕組みや法則に気付く。
<p>B. 言葉への関心</p> <p>①話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人の話や絵本・図鑑，テレビや新聞などの情報から，自分の周りの出来事に関心をもつ。 ○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き，「なるほど」と納得したりする。 ○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。 ○出来事やものの特徴を，かかわっているものやことと結びつけながら，自分の言葉で説明する。 ○比喩や例を用いて話したり説明したりする。 ○しりとり遊びやなぞなぞ遊び，カルタ遊びを楽しむ。 ○好きな絵本がいくつかあり，その内容について意欲的に話そうとする。 ○絵本を読んだ後やその日のミーティングなど，話し合いに参加する。 ○トラブルが発生したとき，その理由を言葉で説明しようとする。 <p>②書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。 ○自分の名前が分かり，平仮名で書ける。 ○書きたいと思い，文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。 ○友達と一緒に，絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）
<p>C. 数量と図形（平面・立体・空間）</p> <p>①数理的な見方や考え方や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象を比べる <ul style="list-style-type: none"> ・並べたり，重ねたり，入れ替えたりして，長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら，ものの数（数量）を見つけ出す。 <ul style="list-style-type: none"> 長いー短い（長さ）／大きいー小さい（体積）／多いー少ない（容積）／重いー軽い（重さ）／強いー弱い（強さ）／早いー遅い（時間）／速いー遅い（速さ）／冷たいー熱い（温度）など ・ものの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> 長いー短い（長さ）／高いー低い（高さ）／深いー浅い（深さ）／広いー狭い（面積）／丸いー角い（角度）など ○まとまりのある3つの群について，多少の区別をする。 <ul style="list-style-type: none"> ($A > C > B$) / ($A = B = C$) ○毎日の欠席調べやけが調べで，誰も該当する人がいないときに0人だという表現や，お皿のクッキーを食べてしまったときに，全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成） ○人・個・本・枚など数詞を遣って話す。

- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
(例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど)
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。(カレーライスやクッキーなど)
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につき分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。(例：動植物や図や国旗や絵本など)
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。(例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど)
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。(ジグソーパズルや自作の遊具など)
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

④パターンと組み合わせ

- ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。(例：トランプやサイコロの目)
- 並んだ絵の繰り返しに気づき、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。
- いくつの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。
- 自分自身でパターンをつくって楽しむ。(例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で)
- 拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。

D. 協同的感性

①協同的な言葉や表現

- 友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。
- 役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。
- 友達と活動の目的や目標などについて話し合う。
- 相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気づき、話し合う。

②人間を理解し関係を調整する力(21項目)

- 異質なものととの出会い
 - ①自分の思うようにならないことを体験する。
 - ②必要なときに、人に助けを求める。
 - ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。
 - ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。
 - ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。
 - ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。
- 異質なものへの興味や関心
 - ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。
 - ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。
 - ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聞く。
 - ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。
 - ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。
- 他者との交流
 - ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。
 - ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。
 - ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。
 - ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。
 - ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。

- ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。
- ⑱関係性をつくる
- ⑲友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。
- ⑳仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。
- ㉑緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。
- ㉒問題に対して創造的に解決しようとする。

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性を考慮し、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。それぞれの項目には、さらに具体的な幼児の姿を例示している。心情や意欲、興味や関心といった内面的な側面と、行動や態度、技術、知識のような外に向けて顕在化される姿とが混在していることは、むしろ接続期の評価としてふさわしいと考えた。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼児期から児童期への学校教育の接続という観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。

【改善を要する点】

今後数年間をかけて、幼児・児童の学びや育ちの現状に照らし合わせながら、評価項目や内容について妥当性を検証するなどさらなる改善が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到に係る状況】

月別の指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。また、各保育室に冷房が設置されているため、室内での活動において熱中症が発生する危険性は少なかった。しかし、今年度も夏季は酷暑が続いたため、園内での夏の過ごし方については、3歳児組では適宜エアコンをかけたり、木陰で時々休むように声をかけたりした。また全学級にも、水分を補給する、外で活動するときには帽子を着用する、ミスト噴霧器を活用するなど、格別の注意を払うよう努力した。また、インフルエンザ等の感染症の流行時期を前に全教員の協力のもと手洗いの指導を徹底するなど予防に取り組んだ。

保護者への保健指導に関する協力については、絵本の貸し出し時間を利用し、各組ごとに保護者に対して講話をし、むし歯予防に対する知識を高めた。また、長期休業日前には基本的な生活習慣についての講話もした。中でも、年長児クラスの保護者対象には、小学校入学に向けて食育も含めての具体的な話をし、理解を促した。また、毎月「ほけんだより」を配付して、夏季には熱中症予防対策についてや冬季では感染症の予防についてなどの情報を提供し、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。今年は、インフルエンザ等の感染症の流行時期の前に、各部屋に塩素系の除菌剤を置くなどして予防に努めた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。保護者による平成26年度幼稚園評価アンケートにおいて、「毎月のほけんだよりは、大変読みやすく、毎月楽しみに目を通している」との意見もいただいた。ただ、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

資料 2-① 保健室 2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・寒さが依然厳しく、インフルエンザの流行がみられる。かぜをひいたり、熱を出したりせきをしている幼児も多くみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・水たまりに張った氷を見つけ、取ってきてみんなで観察をしている。
- ・うがいや手洗いなどに関心を持ち始めている。

【ねらい】

- ・かぜやインフルエンザの予防をしようとする。
- ・寒さに負けず戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
<p>○かぜやインフルエンザの予防をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・うがいの大切さを知り実行できるようにする。 ・規則正しい生活をする。 	<p>○かぜやインフルエンザ，その他の感染症の予防には，うがい・手洗いが大切であることを知らせ，進んで実行できるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつの前，外から帰った後は，必ずうがい・手洗いをするよう声をかける。 ・早寝・早起きや，バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にも伝える。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ，たとえば豆まきでは「かぜもそと」と，かぜに負けない気持ちを育てる。 ・インフルエンザにかかった場合は，出席停止の措置をとるようにする。
<p>○寒さに負けず，戸外で元気に遊ぶ。</p>	<p>○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・スケーター・忍者ごっこなどで身体を思い切り動かし，戸外で元気に遊ぶように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒くなると身体がかたくなり，けがをしやすいため，十分に準備運動をするなどし，けがの予防をする。
<p>○体調や温度・気候に合わせて，衣服の着脱ができたり防寒着の調整ができたりする。</p>	<p>○衣服の着脱や防寒着による調節の大切さを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ後で汗をかいた衣服の着替えができるように促す。 ・天候や気候に合わせて，手袋や防寒着の着脱ができるように促す。
<p>○心の問題や悩みを上手に解決しようとする。</p>	<p>○友達とけんかしたり，遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対して，幼児の話をよく聞き，その子の思いをしっかり受け止めながら，自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。なんとなく来室した幼児に対しては，無理にその原因を追及しようとせず，居心地の良い場所となるように，温かく見守り，幼児の状態を見ながら対応し，気分を立て直して遊びに戻っていけるように支援をする。</p>
<p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>*子どもたちの身体や心の健康について，また，子育て全般について，健康相談の場を設けるとともに，必要に応じて専門機関への連絡を取るなど，保護者のニーズにあった支援ができるようにする。</p>

別添資料 1-③ 平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「平成26年度安全管理計画－危機管理マニュアル」(別添資料2-②)を昨年度の反省にたち見直した上で作成し，それに基づき計画的に安全管理を実施している。また，毎月20日の学校安全の日には，教職員が2人組で園内の安全点検を実施し，危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなど，対応をしている。また，6月には教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し，救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行っている。

資料2-② 防災・避難訓練の実施

<p>① 防災訓練(地震)計画</p>	<p>・ねらい ・実際に地震が起こった時，保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難</p>
---------------------	---

の仕方を身に付ける。

・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成26年5月13日（火） 9：45～10：00

②避難訓練（不審者対応）計画

・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。

・期 日 平成26年6月2日（月） 10：50～11：05

・状況設定 幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定
不審者が幼小連携畑から幼稚園敷地内に侵入。

③防災訓練（地震・火災）計画

・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成26年9月2日（火） 9：40～9：50

④幼小合同避難訓練（地震・津波）計画

・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成26年10月20日（月） 10：39～11：00

⑤緊急地震速報受信訓練

・期 日 平成26年11月5日（水）

⑥防災訓練（火災・地震）計画

・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

・期 日 平成27年1月13日（火） 11：05～11：15

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知しているので、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 2-② 平成26年度安全管理計画－危機管理マニュアル

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、幼児や園の実態に応じてよりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も親しみやすいカットを入れたり、構成を考えるなどして読みやすさを工夫した。特に、流行性の疾病に

については、その予防や対処方法などを丁寧に紹介した。幼稚園評価アンケートにおいても「園が保護者に出す通知やほけんだよりなどはわかりやすかったですか」に98%（昨年度は85%）が「そう思う」2%が「だいたいそう思う」と回答している。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成し教職員・保護者に周知し、災害ダイヤルの利用の仕方についても、試行体験をするなど、保護者への周知に努めた。また、様々な場面での訓練を実施し、1月の避難訓練では教職員にも訓練の時間を予告しないで実施した。訓練の際には幼児が防災頭巾を着用して、より安全に避難できるように練習している。また、毎年、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。大学より支給された防災用備蓄品（飲料・食料・衛生用品等）の準備がほぼ整った。

【改善を要する点】

管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、訓練が形骸化しないよう、訓練の度に危機感をもって実施に臨む必要があると思われる。幼稚園の避難場所は小学校に想定されているので、さまざまな非常用の備品や備蓄品などの保管場所の検討が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

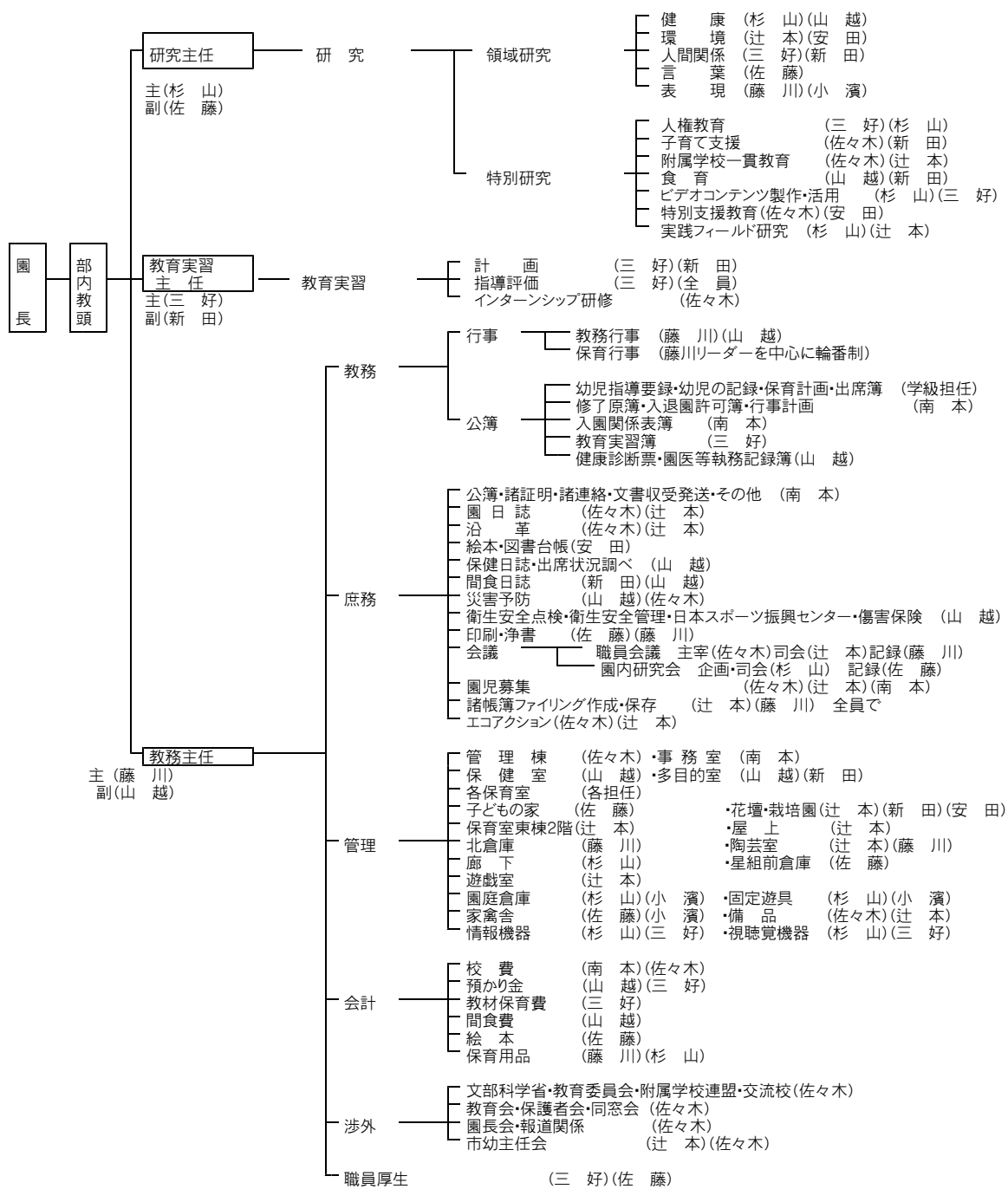
【観点到る状況】

本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。今年度より専任教頭が廃止されたので、学級担任もする部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行った。少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料3-① 平成26年度第1回職員会議題

平成26年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成26年4月1日(火)	10:00～
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担任者)
(1) 平成26年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成26年度 部内教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・同大学中期計画・就業規則等について	資料2	(園 長)
(4) 平成26年度 園経営方針について	資料3	(園 長)
(5) 平成26年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成26年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成26年度 年間行事計画について	資料6	(部内教頭)
(8) 平成26年度 学年始休業中の計画表	資料7	(部内教頭)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(部内教頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(部内教頭)
(11) 始業式について	資料10	(部内教頭)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(杉 山)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(部内教頭)
(14) 入園式について	資料13	(部内教頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(南 本)
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	(部内教頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(部内教頭)
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(南 本)
(19) 平成26年度 幼稚園要覧について	資料17	(園 長)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について		(園 長)

資料3-② 平成26年度園務分掌一覧表



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担が大きいかかわらず、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌がかなり詳細にわたって明記されているのは、少ない人数組織の中での責任の所在や業務内容を明確にするためである。そのため責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。また、年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。かつ、後日全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき場合と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。

【改善を要する点】

次年度も改めて、行事の精選や持ち方の工夫を行う必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている 」と判断する。

評価項目4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

【観点到る状況】

①園内研究会・合同研究会

昨年度まで、文部科学省研究開発学校指定を受け、「幼小接続の教育課程開発～遊誘財が引き出す科学的思考～」の研究主題のもと、遊誘財とかがかわる中で幼児の科学的思考がどのように芽生え、小学校以降の学習につながっていくのかについて、合同研究会において附属校園と大学が共同して研究を進めてきた。この研究成果をふまえて、教育課程と指導計画をまとめ「生活プラン」を刊行した。

8月1日(金)には幼児教育研究会を開催し成果発表を行った。県内外より420名の参会者を得て、「科学的思考を促す『生活プラン』の創造」のテーマで発表を行い、保育実践方法や環境構成についての具体を示した。なお、今年度の幼児教育研究会は第63回全国幼児教育研究大会徳島大会の公開保育と併せての実施であった。

②園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修 幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名
幼稚園教育理解推進事業中央協議会 1名
- ・全附連幼稚園部会への参加等 3名
- ・日本保育学会自主シンポジウムにて発表（幼年発達支援コースと共同）
- ・日本質的心理学会企画シンポジウムにて発表
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、養護

- ・教諭研修会，学校保健安全研究協議会，幼稚園等新規採用教諭研修， 等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会・研究会 等

上記のような数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点到係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援，教員派遣，公開保育の提供としては，次のとおりである。

- ・園長が公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部の支部長を務めた。今年度は第63回全国幼児教育研究会徳島大会を開催，園長が大会運営委員長を務めた。
- ・合同研究会の開催
- ・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・県新規採用研修・新任園長研修会における指導
- ・平成26年度幼稚園新規採用教諭研修・保育技術協議会等，県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（鳥取県教育委員会・高知県教育委員会・京都市私立幼稚園協会・滋賀県大津市・兵庫県たつの市並びに神埼郡 他）
- ・国立教育研究所プロジェクト研究「子どもたちの論理的な思考の育成にかかわる調査研究」協力
- ・文部科学省 幼保連携型認定こども園保育要領の策定等に関する調査研究協力
- ・他県からの研修受け入れ並びに実地指導
公立幼稚園・小学校・保育所（滋賀県大津市・奈良市・土佐市・姫路市 他）
私立幼稚園（高松大学附属高松東幼稚園）

観点4-3 地域住民への貢献

【観点到係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち，専門性を発揮し，次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。参加者172人（11月1日）
- ・教育講演会の開催。今年度は，徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 助教堤理恵先生を講師に「お母さんと子どものための栄養学」と題した講演会を開催し，約60名の参加者を得た。（9月5日）

【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で，科学的思考を促す「生活プラン」を作成した。日々の保育記録や幼児の記録，エピソード記録等をもとに保育カンファレンスを実施し協議を重ねたり，今年度も研究保育を実施したことは，教員の指導力向上に直結し，保育の質の向上に寄与したと思われる。

研究会参観者アンケートの「本日の研修や参観の内容について」の項目においても97.4パーセントがよいと評価している。以上のとおり，幼児教育関係者への研修支援および教員の派遣ができています。

また、園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり、参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから、教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

別添資料 1-④ 「生活プラン」(2014.8.1発行)
別添資料 1-② 平成26年度研究会参加者アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

県内外より研究や実践指導の依頼があり、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

合同研究会では、幼年発達支援コースはじめ教員養成特別コースなど、本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て、多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し、実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

また、大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また、研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。担任外教員（非常勤講師）が配置されているため、数多くの研修会への派遣が可能となっている。

地域住民に対しては、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている。

【改善を要する点】

平成27年度からの子ども・子育て支援法のもと、公・私立幼稚園や保育所の認定子ども園化が加速することが想定される。子ども・子育て支援法の対象となっていない国立大学附属幼稚園としての危機感を職員全員で共有し、なお一層の教育研究の成果アピールをする必要がある。

さらに、大学附属の利点を生かし他大学教員や附属学校教員など、豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を資質向上を図る研修に活用できるよう、多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについて、一定の条件を設けざるを得ないという課題も残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点 5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到る状況】

営繕工事の計画・実施の状況

営繕工事要求書に基づき、大学施設課による現場視察が行われ状況把握がなされた。

しかし、昨年度かなりの予算をかけて従前からの要求が実現されたため、今年度は、幼稚園の寄附金を利用して部分的な営繕に努めた。

資料 5-① 平成 26 年度附属幼稚園営繕工事要求書

要求順位	工事内容	要求理由
1	渡り廊下の屋根の整備（張替）	渡り廊下の上の屋根は老朽化で元の塗装はほとんど落ち、留め金具の錆びや腐食が進んでいる。雨漏り防止と、雨天時の園児の活動の場の確保のため、渡り廊下東側に伸張した屋根に早急に張替を願う。
2	園舎外壁の補修及び塗装	園舎外壁全体にモルタルの剥がれ落ちや、ひび割れがありひどい状態である。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。雨どいの腐食もひどい。
3	3歳保育室の床の張り替え	3歳児の保育室の床が古く、かなり傷んでいる。上に浮いている部分や塗装の剥がれがみられ、安全面からも張り替えが必要である。壁面については塗り替えにより改善された。
4	西側フェンス設置	幼稚園西側に 10 階建ての分譲マンションが建設された。現有の西側フェンスは低くマンションが高いため死角が出来ることになり、外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のため、早急に現有のものより高いフェンスの設置を願う。
5	築山関係の整備	築山の土の流出がひどい。勾配があるため、雨天時には土が流れ落ちてしまう。その度毎に、盛り土をして人の力で固めるのだが、同じような状態になり解決していない。
6	屋上の水はけ	雨天時には水がたまり、数日たたないと使用できない状態である。

・施設・設備の充実整備の状況

渡り廊下の雨漏りについては雨樋合流点に大型ダストを付けてもらったことで改善できた。屋上床面の塗装については部分補修と人工芝張り替えにより改善された。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクール参加者では 96% がよく整っていると認めている。

参観者によるアンケート集計結果（資料 5-②）では、「施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか」では、78.2% が A、20.5% が B 評価とし、あわせて

98.7%から評価を得ている。

資料5-② 平成26年度 参観者によるアンケート集計結果

平成26年度 附属幼稚園 参観者によるアンケート集計結果
*実施日:平成26年4月～平成27年2月 78名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	77 98.72%	1 1.28%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	78 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	74 94.87%	4 5.13%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	78 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	68 87.18%	9 11.54%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	69 88.46%	9 11.54%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	78 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	70 89.74%	7 8.97%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 99.99%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	71 91.03%	6 7.69%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	72 92.31%	5 6.41%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	68 87.18%	9 11.54%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	61 78.21%	16 20.51%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.28%	78 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	58 74.36%	16 20.51%	0 0.00%	0 0.00%	4 5.13%	78 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気できていましたか。	72 92.31%	6 7.69%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	78 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	76 97.44%	2 2.56%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	78 100.00%

【A: と思う B: だいたいと思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

別添資料 1-① 平成26年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-② 平成26年度 研究会アンケート集計結果
別添資料 5-② 参観者によるアンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備についてはすぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つので、園舎改修を切望している。

教職員による環境整備は入念に実施できているので、施設・設備面での改善を必要とする。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月3日

学部1年生幼児教育専修5名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月10日、11日

学部3年生5名・長期履修生（大学院）1名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属学校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月2日

学部3年生5名・長期履修生（大学院）1名

④附属学校園実習 9月1日～9月26日

学部3年生5名・長期履修生（大学院）1名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。計画表は<資料6-①>

保育実習について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週に1度、観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、週ごとに<資料6-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料6-① 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行事	実習要項	指導要項	時間	備考
1	9月1日	月	教育実習開始 対面式 身体測定(5歳児)	観察参加	○教育実習の意義(園長) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について ●記録のとり方について	13:30~14:00 14:00~	諸書類提出 記念写真撮影 (実習生・職員) ※正装
	9月2日	火	避難訓練 身体測定(4歳児)	保育(一部)	○本園の教育について(園長) ●領域研究・環境	13:30~14:00 14:00~	

	9月3日	水	身体測定(3歳児) 午後保育日 みどり会理事会③	保育(一部)	○本園の教育課程・指導計画・日案、幼児理解と幼児指導について(佐々木) ○学級経営・学級事務(佐々木) ●領域研究・言葉	14:00~15:00 15:00~15:30 15:30~	
	9月4日	木	研究保育	観察参加	○保育説明・保育協議 ●領域研究・人間関係	13:30~14:30 14:30~	
	9月5日	金	視力検査(山・川)	保育(一部)	○教育講演会参加 ●第2週保育内容について	13:30~15:00 15:00~	教育講演会
	9月6日	土					
	9月7日	日					
2	9月8日	月	ふれあい実習(1年) 午後保育日	保育(一日)	○家庭との連携、保健・安全指導について(佐々木) ●領域研究・健康	14:00~14:30 14:30~	第1週記録 第2週計画提出
	9月9日	火	救急の日	保育(一日)	○本園の人権教育について(佐々木)	13:30~14:00	
	9月10日	水	午後保育日	保育(一日)	○行事教育—運動会・園外保育について(辻本) ●領域研究・表現	14:30~15:30 15:30~	
	9月11日	木	入園希望者参観	保育(一日)			
	9月12日	金	午後保育日	保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について(佐藤) ●第3週保育内容について	14:30~14:40 14:45~	
	9月13日	土					
	9月14日	日					
3	9月15日	月	〈敬老の日〉				
	9月16日	火	ふれあい実習予備日	保育(一日)	○研究保育案作成		第2週記録 第3週計画提出
	9月17日	水	午後保育日 第7回職員会議	保育(一日)	○研究保育案作成		
	9月18日	木	入園希望者参観	保育(一日)	○研究保育案作成(印刷・環境準備)	13:30~15:30	
	9月19日	金	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●第4週保育内容、評価保育について ●評価保育①指導案作成	14:00~14:30 14:30~16:00 16:00~	
	9月20日	土	学校安全の日				
	9月21日	日					
4	9月22日	月	午後保育日 実習生評価保育①	評価保育①	●評価保育①反省会 ●評価保育②指導案作成	14:00~15:00	第3週記録 第4週計画提出
	9月23日	火	〈秋分の日〉				
	9月24日	水	園外保育(芋掘り) 午後保育日	保育(一部)			
	9月25日	木	実習生評価保育②	評価保育②	●評価保育②反省会	13:30~	
	9月26日	金	入園希望者参観 教育実習終了	保育(一部)	○教育実習反省会	14:00~15:30	
	10月4日	土	運動会				
	10月5日	日	運動会予備日				

資料6-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・ 自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・ 幼児の行為（現象）について記録し、その意味について考察する。 ・ 一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。 ・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・ 教育課程と指導計画について理解を進める。 ・ 一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。 ・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。 ・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・ 園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。
幼児とのかかわり（指導の実際）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。 ・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。 ・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。 ・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 ・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。 ・ 学級事務についての考え方について説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。 ・ 保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。 ・ 人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・ 家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・ 保育観察、講話、ディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己課題をもって保育ができたか。 ・ 一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。

	<p>等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・ 幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。
--	---	---

【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。今年度の実習生は、保育に対する思いがとても強く、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、全てにおいて一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的な能力や研究態度を目指すことができた。子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

また、研究保育、評価保育等、大学から担当教員が園に来てくださり、実習を観ての指導も頂いている。大学側からの意見や質問もあったり、激励にもなったりと実習の充実に繋がっている。

教育実習とは別に、幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）のボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 1－③ 平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

－ 教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください －

教育実習に臨む真摯な姿が評価されていた。「全力で子どもと接してくれたことを喜んでいる。一生懸命さがよく伝わってきた。我が子の特性をよく見抜いていると感じた。子どもに寄り添えるすてきな先生になると思う。子どもは登園を楽しみにして、実習生のことを家でも話をしていた。何事にも前向きで、いつも笑顔で子どもに接してくださっていた。子どもにかけてくれる言葉が優しく、幼稚園に行きたくなった。運動会でのいろいろな協力がありがたかった。一人一人をよく見てくれた。一人一人に手紙を書いてくれたり、短い期間にもかかわらずちゃんと子どものことを見てくれていた。子どもたちと真剣に向き合っている姿が印象的だった。良い先生になってもらいたい。保育後にトイレ掃除など、熱心にされている姿に感心した。ぜひ、よい先生になって活躍してほしい」

教育実習生への助言としては「子どもへのかかわりかたが上手な人、そうでない人、いろいろな人がいたが、皆熱心で好印象でした。プロの先生とは違う大人と接することで、いろいろな大人がいることが学べたと思う。お別れのメッセージに”えっ”。と思った。先生になられるのであれば、優しいおねえさんだけではどうかと思います。」などの記述があった。

別添資料 1－③ 平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書

（2）優れた点・改善を要する点

【優れた点】

- ・ ふれあい実習，観察実習の実施，ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前

に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートがスムーズにきれている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

- ・今年度は、指導教員の負担も考慮し教育実習生を分散させて配属した。実習生の希望も考慮し、4学級6人の実習生を割り振り配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできるようになった。保育の反省・話し合い・教材研究・指導案立案も学年毎に行うので配属学級以外にも目を向けることができより広がりのある実習となった。

- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。

- ・配属された年限での指導が深まるように配慮し、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにした。(6-① 実地教育計画表参照) その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案にあてる時間が十分に確保され、保育指導案の内容がとても良くなった。

- ・大学の教員及び附属学校校園長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校園との連携を図っている。

【改善を要する点】

- ・保育指導案・資料作成等について、実習生が効率的に作成できるような環境づくりが必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	平成26年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成26年度研究会参加者アンケート集計結果
	1-③	平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	1-④	生活プラン（2014.8.1発行）
2	1-③	平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	2-①	ほけんだより2月号（2015.2.1発行）
	2-②	平成26年度安全管理計画－危機管理マニュアル
4	1-④	生活プラン（2014.8.1発行）
	1-②	平成26年度研究会参加者アンケート集計結果
5	1-①	平成26年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成26年度 研究会アンケート集計結果
	5-②	参観者によるアンケート集計結果
6	1-③	平成26年度幼稚園評価アンケート結果報告書